



東地中海地域ニュース

トルコ：大統領選挙第一回投票を巡る動き

(4月27日付現地報道)

- 4月27日、トルコ国会本会合にて第11代大統領選挙の第一回投票が行なわれた。
 - 本投票には公正発展党 (AKP) から 351 名、祖国党 (ANAP) から 2 名、正道党 (DYP) から 2 名、共和人民党 (CHP) から 1 名、無所属議員 5 名の合計 361 名が参加。CHP、ANAP、DYP は事前に党として投票不参加を決定していたが、議員に対する強制力はなかった。
 - AKP のヤルバイ候補が本会合開会直後に立候補を取り下げた為、候補者はギュル候補のみとなった。開票の結果、ギュル候補は 361 票中 357 票 (無効 3、無記入 1) を獲得したが、第一回投票で当選に必要な 367 票に達せず、5月2日の第二回投票に持ち越しとなった。
 - CHP は大統領選挙の投票成立に議員総数の 2/3 (367 名) の出席が定足数として必要と主張し、投票開始前に出席議員数の確認 (点呼等) を求めたが、アルンチ議長は、通常の会合と同様に議員総数の 1/3 (184 名) で十分であり、点呼を求めるならば規定に従い議員 20 名の連名で申し立てを行なうべしとして拒否し、投票を開始した。これに対し CHP は同日、投票無効を主張して憲法裁判所に提訴した。
 - 憲法裁判所が違憲と判断すれば、大統領選挙が成立せず、その結果、早期総選挙が実施される可能性があり、合憲と判断すれば、ギュル候補が第三回投票で過半数を獲得し当選する見込み。
- トルコ軍による世俗主義体制護持の声明発出
 - ブユックアヌット参謀総長は 27 日夜、大統領選挙第一回投票の結果を受け、トルコ軍は世俗主義体制の護持者であり、必要があれば、軍としての立場と行動を明確に示すとの声明を発出した。
 - 軍は 23 日まで、エルドアン首相が軍も受け入れ得る穏健な候補者を選ぶとの前提で展開を静観していたが、24日にギュル外相の立候補が発表され、同人の選出に向けた AKP の動きが本格化したことを受け、27日の声明発出を決定した。

<参考>

トルコ共和国の建国理念の一つは世俗主義体制の維持である。初代大統領のアタテュルク以来、大統領は常に世俗主義者であり、アタテュルクの理念を継承する軍が、世俗主義体制の護持者を自認し、イスラム主義の台頭を抑制してきた。今回ギュル候補が大統領に選出されれば、共和国史上初めての親イスラム主義の大統領が誕生することとなる。しかし、拒否権をもつ大統領は、トルコの建国理念を守る砦とみなされているため、親イスラム主義者が同職につくことは、世俗主義者及び軍にとり、国家体制及び建国理念を覆す事態と受け止められている。今回の軍の声明は、現国家体制の維持の為には政治介入を辞さないとの強い決意表明である。